

令和5年度（2023年度）第2回熊本市教科用図書選定委員会

議事録

<p>委員長</p>	<p>議案 小学校教科書採択について協議をする。 本日は、国語、地図、音楽、図工、家庭、保健、生活の7種目の教科書についての報告を受け、協議をする。時間に限りがあるので、ご協力をお願いする。 それでは、「国語」について、調査・研究結果の報告から願います。</p>
<p>研究記録員</p>	<p>《国語 調査・研究結果の報告》</p>
<p>委員長</p>	<p>続いて、教科書展示会の意見・感想について報告をお願いする。</p>
<p>副事務局長</p>	<p>《教科書展示会意見・感想報告》</p>
<p>委員長</p>	<p>質問・協議に入る。質問や意見があればお出しいただきたい。</p>
<p>副委員長</p>	<p>東京書籍の今画面に出しているが、8番の人権教育のところは○になっているが、他の2社と比べて○にしたところを補足していただければと思う。</p>
<p>研究員代表</p>	<p>3社とも調べた。もちろん教科書会社も人権教育には細心の注意を払いながら作成されているので、決して東京書籍が足りないということではなかった。ただ、人権関係を扱った教材の数として、教育出版、光村図書に比べたら若干少なかった。 その大きな点が2つあったのだが、3年生のほうにパラリンピックを扱った説明文があったのだが、それがちょっとなくなって、「せっちゃんぐざいの今と昔」というのに変わっている。また6年生が「町の幸福論」、コミュニティデザインの説明文があったのだが、それが変わって、「「永遠のごみ」プラスチック」に変わったというところで、かなり人権的に大きい教材だなと思ったところがちょっと変わったということもあって、そういう観点から、決して人権的に配慮されていないということではなくて、そういうことで他社の2社と比べたらということをつけている。</p>
<p>研究記録員</p>	<p>あわせて、画面で説明するが、県の採択の調査の報告にもあったが、人権教育を考える上で、ユニバーサルデザインやバリアフリー、インクルーシブ教育とか、共生社会の形成を目指す概念が反映されている教材というのが示されていた。その中の数を数えてみたのがこちらになっている。 東京書籍が共生社会に関する教材として4教材あるということ、教育出版、光村図書が7教材、8教材ある。それぞれの授業時数も見ていくと、配当されている授業時数からしか分からないが、16時間と43時間、46時間ということで、どれも工夫はされているのだが、より充実した工夫と考えたときに教育出版と光村図書が優れているというような判断になっている。</p>
<p>委員</p>	<p>今、説明の中で「町の幸福論」がなくなったというお話があった。これは結構、地域と密着してやっているような学校も多かったのだが、それに代わるものが、題材的に地域連携とかという視点のものになっているのだろうか。</p>

研究員代表	<p>今度のが「「永遠のごみ」プラスチック」に変わった。その後の活動として、SDGs という取組が要するに環境負荷の取組になるので、そういうことで考えると、地域に目を向けた活動ということで、同じくやはり地域を見ながらの学習にはなると感じている。</p>
委員長	<p>今、私のほうから質問したいのは、ご説明の中で、時間数がかなりちょっと違うというご説明があった。その減っている分が SDGs とか、そのようなところに移行しているということだろうか。</p>
研究員代表	<p>はっきりとは、きちっとは調べていないのだが、今ご指摘があったように、公共関係、これからの社会にどう生きていくかという問題、例えば情報モラルとか環境、SDGs、それと予測困難な社会にいるということで、感染症対応とか、そういうことに関する単元は東京書籍が多かった。ということは、かなりそういうこれからの社会にどう生きていくのかというところには、かなり高学年を中心に単元数は多いので、そちらのほうに時数的にはいつているのかなと感じている。</p>
委員長	<p>今回の学習指導要領の改訂の背景がまさしく予測不能な時代にどう生きていくかと、そういう観点が非常に強い。そのような観点から、高校生が 18 歳で選挙権を行使するという時代になったので、小学生の時から意識させるというような解釈でよろしいのか。</p>
研究員代表	<p>はい。東京書籍はやっぱりこれからの社会をどう生きるのかというのは 5 年生、6 年生を中心に、かなり関する単元は多かったなと思う。そういう視点でかなりつくられているのかなというのを感じた。</p>
委員長	<p>分かった。他にご意見はないか。</p>
副委員長	<p>今の議論なのだが、お話があったように、多分、東書の時間数とか、あるいは単元数として、そこのいわゆる共生社会の実現に関するものが取り上げられていないだけで、実際、教科書全体を見ると、教科書展示会での感想とかにもあったが、非常に見やすく、非常にそのあたりの配慮、そのあたりは東書がやっぱり一番、しっかりと UD フォントを使ったりであるとか、非常に工夫されているなど、そういう印象を受けた。先ほどの 1 年生の最初の特殊音節を学ぶところの配慮であるとか、そういったところの配慮はかなり東書がやっぱり一歩先に出ているなというふうに思った。</p> <p>そのため、さきのデータで示されたとおり、時間数とかを見直すと、東書がどうしてもちょっと数字的には評価が低くなるが、全体として東京書籍がそれが共生社会の実現に向けたものに対して、決して手を抜いているわけではないなというふうに私は思った。</p>
委員長	<p>他に何かご意見あるか。</p> <p>まとめをする。各社、それぞれに特色があるが、調査報告の内容は妥当であるということでよろしいか。</p> <p>これで国語の教科用図書について、協議を終了する。</p>
委員長	<p>続いて、地図について、調査・研究結果の報告をお願いします。</p>

研究記録員	《地図 調査・研究結果の報告》
委員長	続いて、教科書展示会の感想・意見について、事務局から報告をお願いします。
副事務局長	《教科書展示会感想・意見報告》
委員長	質問・協議に入る。質問・意見があれば、出していただきたい。
委員	先ほど二次元コードで白地図が東京書籍のほうには出てくるという話があったかと思うのだが、帝国書院のほうには出てこないのだろうか。
研究員代表	帝国書院は二次元コードのほうで出てくるようになっていて、もしお手元にスマホがあれば見ていただきたいが、4頁に二次元コードがあるので、それを読み込んでもらいたい。
委員	今、画面のほうに出た。
研究記録員	一番最初のページの二次元コードを読み取ると、このようなどころに行くことができる。47都道府県地図というのがあって、熊本県の地図を出すと、先ほどもお示ししたような「県のようす」を見ることができる。帝国書院の場合はこのようになる。
研究員代表	帝国書院の場合は白地図はないのだが、私たちが評価したのは、ご覧のように、例えば「県の様子」であったり、「地形の様子」であったり、「土地利用の様子」であったりと、それぞれ子供たちが学習したいことに特化した地図が表せる点である。地図というのはもちろん情報を載せるものなので、たくさん情報が載らないといけませんが、それが往々にして子供たちが地図からちょっと離れる原因にもなるので、特に低学年、3年生とか4年生の取りかかりとしては、こういう地図があると、子供たちも興味をもつし、例えば話し合いをしたりするときなんかもテーマを絞って話し合ったりできるので、そういう点では、この地図はとてよいと研究員としては評価をした。
委員	真っさらよりはこっちのほうがいいということなのか。
研究員代表	そうである。真っさらは意外とある、用意しようと思えば、別のところから教材だったりとか。もちろん、それに書き込んでいくというのも学習なのだが、先ほども言ったように、本当に矛盾するが、情報をたくさん載せるのが地図なのだが、それがやっぱり子供たちが学びにちょっと目を背けたくなる理由の一つでもあるので、例えばテーマに沿って「地形のようす」はどうかとか「交通の様子」はどうかとか、そういう学習をするのにはこの地図は本当にデジタルコンテンツをうまく使ってつくってあるなど感じた。
委員長	他にご意見はないか。保護者の委員の方々、保護者の立場から何かご意見はないか。
副委員長	前から気になっていたのだが、この表の紙質が違う。帝国書院はいつもこ

<p>研究員代表</p>	<p>れなのだが、何なのか、この紙質の違いは。いつも思っていたのだが、ほかはツルツルなのだが。中身のことでないが。</p> <p>4年間使用するものなので、どんな場面で使っているか分からないが、水に強かったり、例えば見開きに強いようになって、4年間耐えられるようになっていないかと思う。</p>
<p>副委員長</p>	<p>いつもこの紙を使われているので。分かった、4年間使えるということで。</p>
<p>委員長</p>	<p>今やはり子供が、特に小学生低学年は教科書が重たくなるとよくないとかよく聞くが、帝国書院のほうが、少し重い、他はどうか。それほど差はないのか。</p>
<p>研究記録員</p>	<p>そのとおりである。</p>
<p>委員長</p>	<p>その他何かご意見ないか。</p>
<p>委員</p>	<p>今はどの教科書を使っているのか。</p>
<p>研究記録員</p>	<p>熊本市は現在、帝国書院を使っている。</p>
<p>委員</p>	<p>2つを見比べたときに地図の描き方というか、土台の部分なのだが、描き方が多分違うと思う。東京書籍は多分、基本的な描き方は等高線で書かれていると思うのだが、帝国書院のほうは等高線と衛星写真を図化したような感じで描かれていると思うが、子供たちにとってはこっちのほうが見やすいという感じになるのか。さらに、東京書籍は21、22頁はさっき言ったように等高線で描いてあるが、23、24になると、等高線プラスという不思議な描かれ方をされているのは見やすいようになのかなと思うのだが、今、帝国書院が使われているということで、なかなか難しいところだと思うが、そのあたりはどういうふうに評価されたのかなという質問をさせていただければと思う。</p>
<p>研究員代表</p>	<p>一応、研究したときに、私たちが一番評価したというか、どこを注目した点か、帝国書院の21、22頁である。先ほどもプレゼンがちょっとあったが、「広く見わたす地図」というこれが情報量を絞ったものがまずここに最初きている。これに注目したのが、やはり現状の課題として、なかなか学校で地図帳を十分に活用できていない。あとは子供たちもなかなか地図のほうの学習を何だかうまく進めることができないと。そういう点から考えると、もちろん地図帳が一番最初の地図の基礎・基本も分かりやすくはやってあるのだが、地図自体も、先ほども言った情報を整理した地図であったり、こういうふうに少し見やすくなった「広く見わたす地図」、こういうものから入っていくことで、もちろん子供たちも、あとそれを使われる先生方も地図学習にもっと深く入っていけるのではないかなということで研究員としては思った。</p>
<p>委員長</p>	<p>他にはご意見ないか。</p>
<p>委員</p>	<p>地図は好きな子、嫌いな子に差があると思う。興味のある子はどんどんこういうのを使って自主学習したりとかということになるが、苦手な子が、何</p>

<p>研究員代表</p>	<p>回も出てきたと思うが、こんなところは苦手な子にもいいよねというようなところがあれば、ちょっと教えていただければと思う。</p> <p>最初のほうを見ていただいてよろしいか。どちらもなのだが、帝国書院も東京書籍もなのだが、本当にやはり両会社とも、そういうことを考えられて、まず地図が苦手な子に取り組みやすいようにということで、特に先ほどあったが、斜め上から見た町の様子とか、それに今度は真上から見た町の様子、いきなり地図に入るのではなくて、徐々に地図に入っていく。子供たちが一番苦手とするのは、要するに現実の具体的な場面が紙の上の情報に抽象化されるので、そこで引っかかるので、そのハードルというか、段階をスモールステップで踏むことによって、かなり取り組みやすくなっているのではないかなと思う。それから、二次元コードがなかなか最近充実してきて、動画であったり、ドローンで上から同じものを見たりとか、要するに、本当に抽象化したものをより具体的に子供たちが見ると、こういう地図学習でやがては抽象化した地図を読み取って活用するようにならなければいけないので、その橋渡しというか、その辺の部分がかなりスモールステップで十分、両社とも取組をされているのではないかなと思っている。</p>
<p>委員</p>	<p>空間認知が弱い子は、いろいろな手だてを打っても難しいものは難しいなと思うのだが、そういった点からすると、言われるように、スモールステップの取組がなされているなというのが分かった。</p>
<p>委員長</p>	<p>他に何かご意見あるか。 まとめをする。各社、それぞれに特色があるが、調査報告の内容は妥当であるということでよろしいか。 これで地図の教科用図書について、協議を終了する。</p>
<p>委員長</p>	<p>それでは、続いて「音楽」について報告をお願いします。</p>
<p>研究記録員</p>	<p>《音楽 調査・研究結果の報告》</p>
<p>委員長</p>	<p>続いて、教科書展示会の感想・意見について、事務局から報告をお願いします。</p>
<p>副事務局長</p>	<p>《教科書展示会感想・意見報告》</p>
<p>委員長</p>	<p>質問及び協議に入る。質問・意見があれば、出していただきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>中身はご説明のとおり、教育芸術社はとても充実しているなと思ったのだが、私は表紙が気になった。表紙のイラストがちょっと漫画チックというか、子供たちに図工の指導をするときに、こんな絵は描かないよねというふうなものがどの学年もあったので、話題にはならなかったのだろうか。</p>
<p>研究員代表</p>	<p>話題になった。確かに松永委員が言われたように、ちょっと漫画チックというか、この絵でどうなんだろうという意見が研究会の中でも出た。イラストレーターの方があらみけいいちはかなり有名な方であるということで、いかがなものかなという意見は出たものの、子供たちにとっては親しみがもてる絵なのではないかと。意見は出たが、そういうことであった。</p>

委員	子供が漫画で書くような目になっているので、こんなの真似して描かれると、図工の時間に困るなとちょっと思った。
研究員代表	確かに言われることはよく分かる。
委員長	他にないか。
副委員長	教育芸術社の4年生のところで「ごんぎつね」に触れられた。他教科との連携というのであったが、国語との連携で、どんなふうにこの教材が活用されていくというふうに思われているか。
研究員代表	国語で「ごんぎつね」というのが出てきて、各学校で例えば秋ぐらいに学習発表会とか音楽会とかをする場合に「ごんぎつね」をやってみようと思った場合、このように曲があると、そのまま使って音楽会や学習発表会ができるということで、国語と音楽の効果的な指導とあわせて、そういった発表会でも使えるということで、とても有効ではないかなというふうに考えている。
委員長	他には何かないか。
委員長	<p>観点で伝統文化、国際社会というところがあるのだが、先ほどの教育出版のほうは、見開きの1のところまで世界の音楽も載っている。教育芸術社は日本の伝統文化の音楽は先ほどご説明があったが、世界の音楽というのは6年生ぐらいで出てくるということでのよろしいか。49頁に、6年生のところにある。他にご意見ないか。</p> <p>保護者のPTAの委員の方に聞きたいのだが、やはり今はいろいろな音楽のコンテンツがあるので、こういう学校の音楽とご家庭で子供さんが聞いている音楽について、こういう観点もほしいなとかいうものはあるか。ご意見ないだろうか。</p> <p>最近、大変レベルの高いキッズダンスを見ることがあるが、リズムというものに関して、学校の音楽の中で学んでいく観点というものはあるのか。</p>
研究員代表	もちろん、今言われたリズム、それから旋律、和音というのが音楽の主要な三要素とされているが、特に低学年において、1、2年生の間にリズム打ちをして、それでリレーをするだとか、そういった拍の流れに乗って手遊び歌をしたりとか、体を動かしたりして、例えば「しろくまのジェンカ」というのがあるのだが、ジェンカの音楽に合わせて踊るだとか、貨物列車とかジャンケンをしながらつながっていくだとか、そういったリズム、拍の流れに乗って体を動かすというのは、特に低学年を中心はずっと系統立てて音楽の授業の中で活動するように取り入れられている。それとキッズダンスとかが直接結ぶかどうかはちょっと疑問ではあるが、そういったリズム感を身につける、リズムに乗って体を動かすというのは、ずっと低学年から系統立てて学習活動の中でちゃんと取り入れられている。
委員長	<p>他に何かご意見あるか。</p> <p>まとめをする。各社、それぞれに特色があるが、調査報告の内容は妥当であるということでのよろしいか。</p> <p>これで音楽の教科用図書について、協議を終了する。</p>

委員長	次に、図工の調査・結果の報告をお願いします。
研究記録員	《図工 調査・結果報告》
委員長	続いて、教科書展示会の感想・意見について、事務局から報告をお願いします。
副事務局長	《副事務局長 教科書展示会感想・意見報告》
委員長	質問及び協議に入る。質問・意見があれば、出していきたい。
副委員長	ICT、タブレット活用等について、文教出版のほう QR コードとかから見る作品とかは多かったという話であるが、タブレット活用について両社での違いがあれば教えてもらいたい。
研究記録員	今、画面に示しているのが各社の ICT の活用について調査して分かったページの一部である。開隆堂では、5・6 年下の教科書において、タブレット端末でプログラミングを活用した制作活動について題材として扱っているページがあった。また、日本文教出版でも、「ICT でチャレンジ」ということで、こちらもプログラミング等を活用した題材が示されている。
副委員長	開隆堂のほうはプログラミング学習の方にかなり力点を置かれており、図画工作で表現といったところでは文教の方が優れているという気もするが、これは研究員の中では評価としてはどのように評価されたのか。
研究記録員	ICT の活用そのものについては両社ともに同じ程度、活用しようとしていると判断した。
副委員長	評価については理解したが、両社の特徴の違いについて詳しく聞きたかった。
研究記録員	二次元コードの先のページの特徴についてお伝えしてもよいか。二次元コードの先のページでの特徴として、日本文教出版のほうは、先ほどもお伝えしたように、参考作品がとても豊富で、さらに独自のアプリ、例えばコマ撮りアニメーションなどを作成するアプリなど、日本文教出版が開発社とタイアップして制作しているものが掲載されていた。また、開隆堂は、もちろん参考作品の数は日本文教出版と比べると少ないのだが、質としては十分、参考となる資料になっており、導入で使える動画が掲載されていて、その動画を研究員で見ても、これを見ると、とてもわくわくして作りたくなるといった報告がなされていた。そういった導入の動画は日本文教出版にはなかった。そのような違いがそれぞれあった。
副委員長	報告の中で、日本文教出版の方が参考資料が多いということは何度か出てきて強調されていたので、多ければいいというものではないだろうというふうに私は思いながら聞いていたから、とても納得した。
委員長	他に何かご意見あるか。

	<p>まとめをする。各社、それぞれに特色があるが、調査報告の内容は妥当であるということによろしいか。</p> <p>これで図画工作の教科用図書について、協議を終了する。</p>
委員長	次に、家庭の調査・結果の報告をお願いします。
研究記録員	《家庭 調査・結果報告》
委員長	続いて、教科書展示会の感想・意見について、事務局から報告をお願いします。
副事務局長	《副事務局長 教科書展示会感想・意見報告》
委員長	質問及び協議に入る。質問・意見があれば、出していきたい。
委員	両方の会社で、最後に技能的な面がまとめてあるが、その辺の比較したところで何かお気づきがあったら教えてほしい。
研究員代表	<p>両教科書とも巻末に写真の資料、イラストの資料が豊富に示されているというのは委員の中でも話題になった。開隆堂の方もたくさん示してあって、特に裏表紙にまで写真がついている。実際の切り方が示されているので非常に工夫をされたところなのかなというふうに捉えた。資料の多さとしては開隆堂の方が多少写真などの資料が多く掲載されているが、その分、東京書籍の方は、足りないものを思考ツール等のコンテンツで補っているところがある。</p>
委員長	<p>私から一つ質問があるが、今回の調査の観点に関しては、東京書籍の方が両方とも◎、開隆堂の方は片方が○という形だったのだが、唯一、4番目の勤労観と職業観、ここが東京書籍は○で開隆堂が◎なのだが、これはどのように違いがあったのか。</p>
研究員代表	<p>どちらの教科書も、東京書籍の方はプロに、開隆堂の方はキャリアインタビューとして職業人の方が掲載されている。開隆堂は一番最後にまとめて138～139頁に「キャリアでつなぐ、持続可能な社会」ということで、キャリアインタビューがまとめて掲載されている。これはそれまでの学習でも関わりのあるキャリアインタビューが載っていたのだが、最終的に持続可能な未来という取りまとめの中で、職業人の方々の関連をまとめて書いてあるというところは、2年間の学習のまとめとして非常に有効にまとめてあるなどというところがあった。</p>
委員長	<p>それから、後ろの方に、両方の教科書ともに、右利きと左利き両方きちんと写真つきで技術的なことを載せてあるというのはとてもいいことである。</p> <p>他に何かないか。</p>
委員	内容とはあまり関係ないが、開隆堂さんの方の紙質がざらざらしているのは何か意味があるのか。
研究員代表	これは教科書会社ではないので、つくった意図は分からないが、私たちも

	<p>見ていて、この紙質の違いというのは話題になったところである。めくってみながら、開隆堂の紙の方がめくりやすいなという感じはした。教科書に書き込むページが開隆堂の方がやや多い。書き込みやすさという点では、この紙質がいいのではないかと。東京書籍の方はさらっとした感じではあるが、こちらも書き込みはできるようにはなっている。こちらの紙質の方が少し軽くなっている。そのようなものが紙質の違いとしてある。</p>
委員長	<p>○がついているスライドをちょっと出していただきたいのだが、これを見ると、今回熊本市が重視する観点については、東書は◎の数が多いが、実はこれを見ていくと、全体で◎の数が1つしか変わらない。この辺、どうか。</p>
研究員代表	<p>そのとおりだと思う。どちらの教科書も非常によくできているというのが研究員でも話は出たところである。そもそも教科書のつくりにも多少違いがあって、東京書籍の方は、どちらかという問題解決的な学習を意識したつくりになっているので、熊本市の目指す授業、それから研究テーマに沿って研究会でやっている授業に近い形で授業が進められるのは東京書籍の方ではないかというようなことで、今回の観点を選ばせていただいた。</p>
委員長	<p>分かった。確かに授業改善につながりやすい教科書という観点で、やはり今回の学習指導要領の改訂に沿ったものになっているというふうに理解してよいか。 他には何かないか。</p>
委員	<p>東京書籍さんの5頁に「生活を変えるチャンス！」というふうに書いてあって、家庭科は地域の生活をよりよく変える力を身につけていこうと3頁に書いてあるのだが、子供がこれを見たときに、生活を変えなくちゃいけないのかなと疑問に思わないかなという点と、どうして変えなければいけないのかがちょっと具体的にあまり書いていないなという印象を受けたのだが、この点、何かお話を上がったか。</p>
研究員代表	<p>今のご指摘のような観点で具体的に話はなかったと思うが、家庭生活をよりよくという、今の生活を見直しながら、振り返り、今の生活に課題はないのだろうか、見直す点はないのだろうかというところを子供たちに振り返ってもらいたい。そういう視点をもってもらうための家庭科であり、生活をよりよくするという力を子供たちに育成できればいいなというふうに考えている。</p>
委員長	<p>まとめをする。各社、それぞれに特色があるが、調査報告の内容は妥当であるということでよろしいか。 これで家庭の教科用図書について、協議を終了する。</p>
委員長	<p>次に、保健の調査・結果の報告をお願いします。</p>
研究記録員	<p>《保健 調査・結果報告》</p>
委員長	<p>続いて、教科書展示会の感想・意見について、事務局から報告をお願いします。</p>

副事務局長	<p>《副事務局長 教科書展示会感想・意見報告》</p>
委員長	<p>質問及び協議に入る。質問・意見があれば、出していきたい。</p>
委員	<p>たくさんの教科書があって、比較されるのは大変だったと思うが、やはり保健は自分の心も体も変化する時期の学習もたくさんあるし、知識として理解が必要な場面もたくさんあると思うので、その参考となる資料とかデータとかが学習の中では大事になってくるかと思う。</p> <p>この○の表を見ると、東書がたくさんついているということもあるが、そういった資料面、データ面も充実していたというところで理解してよいか。</p>
研究記録員	<p>本来なら、研究員代表の先生が私よりも詳しくお答えできるのではないかと思うが、私が分かる範囲でお答えさせていただく。</p> <p>資料関係は、一つは、この観点の中でいうと、観点3に当たる部分、「補充的・発展的な学習」ということで、資料の多さというところで考えてみたところである。どこの会社も現代的な課題、健康課題にある部分の補充的な参考資料であったり、LGBTQ であったり、そういう資料について、どの会社もしっかり扱ってあった。東書については、シンキングツールなどのデジタルコンテンツなど、子供が操作をして分かりやすいというものが多かったということが研究員から出ている。</p>
委員長	<p>他にないか。</p> <p>私、委員長のほうからちょっと質問したいのだが、今回の観点に関しては、よくご説明があったので分かった。ただ、これをずっと見ていると、やっぱり圧倒的に東書が◎が多い。東書の今回の観点以外のところで非常に優れている点はあったか。少し説明していただきたい。</p>
研究記録員	<p>思春期になると異性を気にするようになるというあたりを全て比較して、どのような表現になっているか、現代的なところで先ほど申したLGBTQの扱い等は各社どのように捉えられているか、というようなところを調べていただいた。まず、研究員の方が一番初めに発見した部分として、東書だけ、「異性が気になるようになる」というようなところが「異性などが気になるようになる」という表現であった。3・4年生の37頁、38頁で「など」というふうにされているところである。たった平仮名2文字ではあるのだが、必ずしも異性をみんなが気になるようになるわけではないというようなところが配慮されているという点であった。他にも、デジタルコンテンツが東書ではほとんどが自社で作成されており、様々なコンテンツが数多くそろっているというような印象を受ける。その他の出版社は厚生労働省等、関係機関の別のウェブに飛ぶというようなところが多かった。そういう違いがあったというふうに思うが、それでよろしいか。</p>
委員長	<p>他にご意見ないか。</p>
副委員長	<p>教科書会社が6社もあるのだが、観点6の生命・自然・環境は6社とも全部○しかついていないので、各社横並びなのかなと思いながら、こちらの報告書を見ていると、割とちょっと書きぶりが違ってくるというのがあって、例えば東書はかなり書いてある。しかし、例えば大日本図書とか大修館書店の観点6のところは、単純に新しい命で取り上げているというだけの記述で、</p>

<p>研究記録員</p>	<p>もちろん、他のところは、それぞれが配慮されているとか工夫されているとか充実されているとか、明らかに差があるような書きぶりになっている。であるにもかかわらず、全部が横並びで○になっているというのはどういうことなのかなと思った。</p> <p>生命に関する部分は保健で非常に関わってくる部分だということで、注意して見た部分であった。生命の誕生の部分は、どの会社も命の大切さであったり、赤ちゃんの誕生であったり、神秘的な部分ということで扱ってある。しかし、ここが特徴的だということが今回、見つけることができなかった。扱ってあるという事実だけは確認できたのだが、とても工夫されているとか、発展的な学習につながるというような取り上げ方は見られなかった。生命に関連する可能性があるという部分で、見つけたものも取り上げてあるので、教科書によって書いてある数は違うため書きぶりは少し違うが、6社ともに○と評価した。</p>
<p>副委員長</p>	<p>それはよく分かった。ただ、報告の書きぶりとの丸のつけ方が多少一致していないような感じがあって、いわゆる教科書会社によって、観点6のところ非常に配慮されている、充実されていると書いてあるところと単純に取り上げているだけが書いてあるところが同じ○になるのは、この○のつけ方としてどうなのかという話である。</p> <p>全体の健康に関係するわけではないのだが、少しちょっとこの報告書の内容を見ると、大日本図書と大修館書店が他よりは書きぶりにちょっと弱いような感じがした。しかし、他のところに◎にすると、逆に東書はほとんど◎だらけになるから、ちょっとつけづらいのかなという感じがする。大日本図書と大修館書店は報告書的には1ランク下がったような感じに読み取れるという感じがするので、このところの○のつけ方は少しめり張りを利かせた方が、6社もあるので違いが分かるような気がした。</p>
<p>委員長</p>	<p>同じ○でも差があるということか。ただ、研究員の先生方がやっぱり理想とするところまでは、どの教科書も、もう一歩足りなかったというそういう解釈か。</p>
<p>研究記録員</p>	<p>そのように理解してもらいたい。</p>
<p>委員長</p>	<p>非常に優れているというところまではなかったという解釈と理解した。他にご意見ないか。</p> <p>委員、やっぱり青少年とか児童のことをご専門にされているが、いかがか。やっぱり保健というのは命等に関わってくるが、何かご意見あればお願いしたい。</p>
<p>委員</p>	<p>保健には限らず申し訳ないが、今日この会に参加して、あまりにもQRコードとかIT関係が入ってきていて、昔と全然違うという印象が大きい。私は青少年の指導員もしているのだが、指導員の会議や理事会でもいつもSNSの問題に関連する、いろいろな問題が出てきている。そこにどんなリスクがあるかいろいろなことが出てくるのだが、そのような中で子供たちはこれだけ学校でSNSを使いなさいということをお教わってもらっていることを理解できた。だから、そういう意味ではやっぱり使い方を本当に教えていただく等、使い方を学ばないといけない。以前、私がPTA活動をしていた頃はSNSや携帯電</p>

	<p>話を使わせないようにしようという認識だった。今は反対に、どうやって使うかということになってきている。授業の中でも、これだけタブレット端末を使うのが当たり前になってきている。全部 IT に飛んで、そこでいろいろなものを見てという形なので、使い方は大事だと思う。大人でもスマホを見て自分が探しているものではなく、間違っただけ違うところに行くことがある。その辺をやっぱりどのように使わせるのかなと、すごく大事という感じがした。</p> <p>それと、保健ということでいうと、やっぱり私たちが子供の頃ってこういうのは私と全然学んでいなかったように思う。だから子供たちが今持っている知識というのは全然違うと感じた。だから私たちが子供たちに接するときには街頭で声かけをするのだが、やっぱりもっている前提が違うということを非常に今感じたところである。</p> <p>これで◎と○とかを見せていただいて、やっぱり明らかにいろいろ差があると分かった。ただその見方が大人、私たちの視点ではなくて、3年生だったら3年生、4年生だったら4年生として必要なものというのはこういうことだということが分かった。何かうまく書いてあるよねと私は思っていて見ると、いや、それは書き過ぎであるとか先生方が言われていて、ああ、なるほど、やっぱり書き過ぎてあったらいけないとかよく分かった。そういう意味でいろいろな視点で見せていただいて、大人の視点だけではいけないということを学ばせていただいた。</p>
委員	<p>私は民生委員の立場から参加しているが、保健はつくづく今というのが、変わってきているなと思った。というのは、今の教科書では、子供が大人になっていく成長過程で、男は男らしく、女は女性らしくとなってくるところが、例えば体は男だが心は女、また反対もというように、今までは全然気づかなかったところが変わっていることが分かった。多様性の今を考えながら、この保健はよくできた教科書なのだが、まただんだんこれからも変わっていくので、次回の教科書のときにはさらに変わってくるのかなという感想をもっている。</p>
委員長	<p>他に何かご意見あるか。 まとめをする。各社、それぞれに特色があるが、調査報告の内容は妥当であるということによろしいか。 これで保健の教科用図書について、協議を終了する。</p>
委員長	<p>次に、生活の調査・結果の報告をお願いします。</p>
研究記録員	<p>《生活 調査・結果報告》</p>
委員長	<p>続いて、教科書展示会の感想・意見について、事務局から報告をお願いします。</p>
副事務局長	<p>《副事務局長 教科書展示会感想・意見報告》</p>
委員長	<p>質問及び協議に入る。質問・意見があれば、出していきたい。</p>
委員	<p>私がよく分かっていないのだが、振り返りの話がたくさん出てきたと思う。例えば、◎になっていた教育出版の21頁、青い付箋の2番なのだが、「ぐん</p>

<p>研究員代表</p>	<p>ぐんはしご」というところの説明があったと思う。この「ぐんぐんはしご」で振り返りをしていくのは、どういうふうにするのか。例えば、他の出版社であれば、光村図書は振り返りの仕方がとても具体的に書かれていて分かりやすいのだが、この「ぐんぐんはしご」の場合は、どういう振り返りを実際すればいいのか、ちょっとイメージが湧かなかったので教えてほしい。</p> <p>光村図書の場合は、必ずここを見れば振り返りができるということで分かりやすい。この「ぐんぐんはしご」については、例えば付箋2を見ると、はしごの下に、「がっこうにおきにいりのぼしよやひとをみつけたかな。」という目標がある。この目標を受けて、何を見つけたかなということを考え、「下のほうかな」「中間かな」「とても見つけたから上の方だよ」と、お気に入りの場所が見つかったよというときには一番上まで登るというふうに、子供が僕はここだよ、私はここだよと丸を付けることによって、自分が見つけたものは何だったかなということを振り返るように使う。このように使うことで、子供が自分で振り返りをすることに活用できると判断した。</p>
<p>委員</p>	<p>それだけの振り返りでいいのか。</p>
<p>研究員代表</p>	<p>この 20～21 頁は、20 頁からつながっているわけで、「なにをかんじたかな」と、ここでまず「伝えたいこと」や「見つけたこと」を1回ちょっと振り返る。そのように振り返った後、もう一度単元全体を振り返るときにこの「ぐんぐんはしご」があると、子供に分かりやすいのではないかと考えた。</p>
<p>委員</p>	<p>分かった。</p>
<p>委員長</p>	<p>他に何かご意見はあるか。 最初の方に、熊本の題材というような項目で、その数や熊本の何を扱っているかという説明があったと思うが。</p>
<p>研究員代表</p>	<p>コンテンツの説明のところだろうか。</p>
<p>委員長</p>	<p>そうである。重点的な観点の説明はよく分かったのだが、熊本の自分の地域のものを扱うというような観点で見ると、教科書によっては随分差があるのではないかと感じる。その辺は議論されたか。</p>
<p>研究員代表</p>	<p>熊本の関連資料が、載っている、載っていないという差はある。熊本の関連資料が載っているからいいというわけでもない。どこの教科書にどんな資料が載っているのかというのは調べた。載っている、載っていないで見ただけである。一応参考資料ということで調べた。</p>
<p>委員長</p>	<p>もう一つ、ICT の活用のところはかなり数が違う。二次元バーコードの数が、東京書籍は非常に多いのだが、これは何か理由があるのか。光村図書は24、東京書籍は上と下で 366 と 325。この数の違いが教科書の特徴に表れていることはないか。</p>
<p>研究員代表</p>	<p>数については教科書会社の自己申告でもあるので、数をこういうふうにしてあげてある。内容を見てみると、東京書籍の場合は、自社の独自のものよりもNHK for School につながるものが多かった。啓林館は図鑑系の自社サイトが</p>

	<p>非常に充実している。教育出版の図鑑はルビまで打ってあり、非常に子供でも読みやすい。光村図書は「健康」「道具」「安全」「近づかない」という4つのコンテンツに限定されていて、図鑑類は上下巻末に厚紙で下敷きのような感じのものがついており、切り取って使うようになっている。</p>
研究記録員	<p>数のところは各社の自己申告の数字をそのまま載せた。会社によっては載せていないところもあったので、光村図書とかは私が数えた。数えてみて、東京書籍はもうこれ以上、先には入っていけないところまでの数を載せてあると思った。例えば、これ以上、先に入っていけないところまで数えていくと、もっと数は増えるのと思う会社もあった。なので単純に数だけでは比較できないと考える。</p>
委員長	<p>数え方の基準が違う。ばらばらということか。</p>
研究記録員	<p>そうである。数え方が会社ごとに違う。</p>
委員長	<p>違うから、数だけでは比べられないということか。</p>
研究記録員	<p>例えば、虫の写真のところまでを数えている会社もあるが、その写真を押したときにその虫についての説明が出てくるとしたら、その次までの数を数えている会社もある。数え方が各社違うとは思ったが、各社が「いくつコンテンツがある」と言っている数を一応並べ、コンテンツとしてどんなことが載っているかを研究員で調査した。</p>
委員長	<p>分かった。</p>
委員	<p>さっき、研究員の方が地元熊本のことを書いてあるからいいわけではないと言われたのが、私はちょっと気になった。子供たち、特に低学年の子供たちからしたら、世界のこと、知らないところのことばかり書いてあるより、やっぱり地元のことを書いてあるというのは、すごく親近感があるのではないか。そこは、私は個人的にはすごく大事なことはないかと思うので、よかったらその辺は、ちょっと違う見方もしていただきたい。内容的にいい悪いだけではなく、やっぱり子供たちには親近感はずごく大事ではないかなと思う。これは私個人的希望である。</p>
委員	<p>おもちゃづくりとかが載っていて、私は経験があまりないが、授業では、子供たちがこの教科書を見て、自分たちでできるようにという工夫がしてあると思う。作り方の表記の仕方がいろいろ違っていたと思うのだが、どの教科書が見やすいか等の比較はしたか。</p>
研究員代表	<p>今の質問は、書き方ということであるか。おもちゃの作り方の説明ということか。</p>
委員	<p>そうである。子供たちが自分で見て、教科書を参考にしながら作ると思うのだが、例えば教育出版の90頁、「おもちゃの作り方」は、写真があって、縦書きに作り方が書いてあるので非常に見やすいかなと思う。こんなイメージで作るというのが分かると思った。他の会社のものは私も広げて見ていないので、もしそのような点を研究していたら教えてほしい。</p>

研究員代表	<p>教育出版の場合は縦に書いてあって、これは絵のみであるが、会社によっては、デジタルで詳しく音声つきで作り方を説明しているものもある。スライドショーになっているところもある。</p>
委員	<p>子供からしたら、教科書だけではなく、デジタルコンテンツがあった方が作りやすいと思う。</p>
研究員代表	<p>デジタルコンテンツも見てみたのだが、スライドショーだけで音声がないものは、一旦止めてそこまで作ってみたいなというときに便利。作るときに、教師が説明をすることが多いが、子供たちが自分で作りたいものを作るという場合は、デジタルコンテンツで音声を聞きながら見て、途中でそれを止めて作るということもできる。そのように、各社、いろいろ工夫している。</p>
委員	<p>その辺は、とても差があるのかなと、今聞きながら思ったところである。</p>
研究員代表	<p>もう一つ言えば、光村図書は巻末にある「ひろがるせいかつじてん」の中に、載せてある。これは取り外しができるので、自分の作りたいところに持って行って作ることができる。他の会社は、教科書の中に載せてあるというような状況で、その違いがある。</p>
副委員長	<p>最終評価で、今のところ◎の数でいえば、教育出版と光村図書と啓林館が大体横並びで、今まで熊本市が使っていた東京書籍が1個ちょっと◎が少ない。選定をしていく上で、かなり横並びだという状況があって、委員長とか委員とか、あえてもうちょっと他のところに特色はないのかということで、かなりご確認いただいていると思うのだが、やっぱり見えてこない。お話を伺っている中で、ICTのコンテンツにしても、各社それぞれ数え方もそもそも違うのでといったような感じでどれがいいのかよく分からないし、おもちゃの作り方の書き方もいろいろな形があるが、それも決め手がない。今ちょっと、光村図書の取り外せる形式だということが1つのメリットなのかなというところがあったが、それだけで○の数が全部変わるかどうかまではちょっとよく分からない。これは、明確に1つか2つぐらいまで絞らなければいけないものか、この状態で取りあえず良しとしていいのか。</p>
所長	<p>あくまでも調査の報告であるので、良しとしていい。研究員は調査報告をする、それから選定委員はその調査報告が妥当かどうかを検討するところである。どれがいいかと教科書を決定するのは教育委員会会議で、教育委員の皆様ということなので、ここで、どこかの○の数を多くするとかということは必ずしも必要はないと思う。</p>
副委員長	<p>では、この形でいいというならば、それでもいいのだが、ただ結局、今日は重点項目2つを中心に説明していただいたが、結局そこで差がつかなかった。7社あるうちの3つまでが差がつかなかったところからすると、もう少し、各社のこの辺がこういう特徴があってといったようなところもちょっと出していただいたほうが、研究結果の報告としてはよかったのかなと思うところではある。もうこれでいいと言うならそれでいいのだが。</p>
研究記録員	<p>今お見せしている表は、調査した観点2つの中で、工夫されていると述べ</p>

	<p>たものをピンク、もう少し工夫が必要というところをブルーで示している。ブルーがあるところは、もう少し工夫の余地があると見ることができる。</p>
委員長	<p>そうすると、調査された先生方から見ると、ピンクの数が多いほうがよく工夫されている教科書ということになるのか。</p>
研究記録員	<p>調査してみたらこうであったということである。</p>
委員長	<p>では、これを見ると、やはり非常に細かく工夫されている観点が多いというのは啓林館になる。</p>
研究記録員	<p>そうである。</p>
委員長	<p>教育委員会の委員の先生方、いかがか。</p>
委員	<p>せっかく資料を出していただいたので確認なのだが、最終的には1つに決めないといけないので、では、どこで決めるのかという話になってくと思う。これを見ると、教育出版と啓林館は、観点2の①でピンクの数が4つずつなのだが、項目が違う。一番下が、教育出版は「学びの見通しを持つ工夫」、啓林館は「思いや願いを高める工夫」となっている。観点2の③の方は項目が同じなので比較しやすいが、観点2の①の方は、ピンクの数は一緒だが項目が違う。そのことについて説明いただきたい。</p>
研究記録員	<p>◎の数が同じなので、そこについて、副委員長が聞かれたようなことは聞かれると思い、プレゼンの中で述べた工夫について、全部一覧にしたらどうだろうかと思い作成したが、ちょっと突貫工事で作成したため、同じ項目を並べていくと枠内に入らないとなり、違う項目でも隣同士に並べるというこのような形になった。「学びの見通しをもつ工夫」としては、教育出版の「いぐら」が歩いていく「はっけんロード」のことを「見通しをもつ工夫」として捉えていて、あのような工夫はほかの会社には発見していないので、1個だけ飛び出る形になるが、同じ項目が横並びになるように作り替えたいと思う。</p>
委員	<p>横並びとは、どういうことか。</p>
研究記録員	<p>教育出版にだけ「学びの見通しをもつ工夫」があるということが見える形にするということである。</p>
委員	<p>では、教育出版は5つになるということか。</p>
研究記録員	<p>教育出版は、「思いや願いを高める工夫」のところ为空欄になって、1個下に「学びの見通しをもつ工夫」がある形になる。</p>
委員	<p>その2つの工夫を比べたときに、どちらが重要なのか、同じなのか。生活科として、どちらが優先されるべきなのかと考えた場合はどうだろうか。</p>
研究記録員	<p>児童の実態のところ述べたように、やはり生活科は「思いや願い」から授業がスタートするので、「思いや願いをもつ」「思いや願いが高まっていく」</p>

委員長	ほうを重要と考えている。
委員	他にご意見ないか。
委員	調査報告書だが、最後の要旨の部分の表現が、◎の数と同じである光村図書、教育出版と啓林館でも、かなり差があるような気がした。そこを合わせておいたほうがいいのではないか。「よく工夫されている」という表現の数が同じようには見えない。
委員長	「とても工夫されている」という表現を用いている数が違うということか。
委員	違うように思う。大体同じぐらいであれば大丈夫である。
委員長	啓林館が要旨の分量としても多くて、「とても」の表現も多い。「とても」が4つある。
委員	それだけ、よく工夫されているということであるか。
委員長	同じ◎だから同点ということではない。
研究記録員	<p>工夫はされているが、この工夫がほしいなというところは○になっていて、ほしいなという工夫があるところは◎になっている。同じ◎のところは全て同点かと言われると、若干違いがある。3社が◎の数が同じだが、こんなところが3社それぞれで違うということをお見せするために、こういうものも作っている。</p> <p>これは花を栽培する単元のところで、教育出版と光村図書と啓林館で3社を並べて作ってみた。ちょっとずつ違いがあって、教育出版は、先ほど説明した単元と同じように単元扉に「わくわくスイッチ」はあるが花の写真はない。先ほどから話している「思いや願い」、「この花を咲かせた」「こんな花を育てたい」という思いを高めるには「わくわくスイッチ」ではないのではないかなと若干思うが、教育出版はこれを「思いや願いをもつ工夫」として載せているということだったので、ここはこれで取り上げている。「たねをまこう」から斜めに並べている写真を見て頂くと、「たねをまこう」は、種の写真からスタートしているのが分かると思う。種の写真が「たねをまこう」のページに載っている。そこから生長過程がずっと写真で提示されている。</p> <p>光村図書は、単元扉にすごくきれいな花がいっぱいあって、これを見たら、「こんな花を咲かせたいな」という思いが高まるのではと思う。その先を見ていくと、世話を続けていくページの中には花や芽の写真の提示がない。先ほど、巻末にある別冊におもちゃづくりの仕方が載っていると説明したが、花が育っていく様子の写真も巻末の別冊に載っている。ここがちょっと違う。</p> <p>もう一つが啓林館の資料である。啓林館は、単元扉に花を見て喜ぶ子供とアサガオの写真がある。その次の頁の「わくわくタイム」が啓林館の特徴で、単元扉の次に必ず1頁、見開きで作ってある。ここで花の写真をたくさん提示することで、「この花の種が植えたい」「これをまきたい」という子供たちの思いや願いが生まれるような工夫が見られる。花の写真の右側には、種の写真も載せてあって、「何の種かな」「どの花が咲く種なんだろうね」みたいな話ができるような作りになっている。さっきの教育出版と大きく違うのは、「たねをまこう」のページの写真が花になっているところである。種の写真</p>

<p>委員長</p>	<p>ではなく、「たねをまこう」のページに花の写真が載せてあって、「この花になる種をまきたい」「この花が咲く種をまきたい」という思いが生まれるような工夫がそこにあると思っているところである。 これが、◎にした3社の違いが分かるかなと思い、作った資料である。</p> <p>あと一つ、私がぱっと見たときにすごいなと思ったのが、光村図書の上巻の110頁の後、この写真のきれいさがすごい。これはやっぱり光村図書の特徴か。</p>
<p>研究員代表</p>	<p>そうである。これは切り取り式になっていて、外にこれだけを持ち出して、いろいろなところに探しに行くことを想定し、汚れないようになっている。</p>
<p>委員長</p>	<p>自分でそれを持って行くということか。分かった。 他に何かご意見あるか。 まとめをする。各社、それぞれに特色があるが、調査報告の内容は妥当であるということよろしいか。 これで生活の教科用図書について、協議を終了する。</p>
<p>委員長</p>	<p>本日は、国語、地図、音楽、図工、家庭、保健、生活の7種目の教科書についての報告を受け、協議した。7種目とも、調査報告の内容は妥当であったということで、よろしいか。 これで、本日の協議を終了する。</p>
<p>委員長</p>	<p>本日は、音楽一般、器楽合奏、理科、地理の4種目の教科書を協議した。4種目とも調査報告の内容は、妥当であったということで、よろしいか。 これで、本日の協議を終了する。</p>